

学びのアルバム NO.1

幼稚園には子どもたちが中に入って遊べるほどの大きな大きなこいのぼりがあります。過去には、何人もの子どもたちが見て、触って楽しんだことでしょう。風のある日には、まるで子どもたちを手招いているかのように、風に乗って大空を泳ぐこいのぼり。その雄大な姿に、思わず立ち止まって見とれてしまう年少さんもいます。

昨年は、臨時休業のため見せてあげることができなかったこいのぼり。今年はたくさん見せてあげたいと、先生たちも頑張って大きなこいのぼりを上げ続けました。





こいのぼりを作ろう！（年長組の部屋から）

ある日のこと…

「あそこにこいのぼりが見えるよ。」と、子どもたちが2階の窓からこいのぼりを見つけました。

そこで、さっそく『こいのぼり探し』に出発！

どこで上げているのかなと、みんなで歩いていくと、近所の庭先で優雅に泳ぐこいのぼりが見えてきました。

立ち止まって眺めていると、声を掛けていただき、近くで見させて頂きました。つき組の部屋から見たときには小さく、一番上のこいのぼりだけが見えましたが、「近くで見ると大きいね。」「1. 2. 3. 4. …4匹およいでる。」と近くで見て、感じたことを伝え合っていました。



こいのぼりを見つけた子どもたちは「私たちも大きなこいのぼりを作ろうよ!」「いいね。」と興奮気味に話し始めました。

そこで、幼稚園に戻ってから、どんなこいのぼりをつくりたいのか、何匹作るのかなど、クラスみんなで話し合いました。

「16匹にしよう!」（クラス8人×2匹の計算でしょうか。）「16匹も作れないよ」「何色のこいのぼりにする?」「虹色。」「私はピンク」など、時間をかけて相談した結果、つき組の子どもたち全員が作りたい色を全部使って、『5色のこいのぼり』を作ることになりました。

ところが、ある子は「1匹大きなこいのぼりを作って、いろいろな色を付ける。」といます。ある子は「別々の色のこいのぼりを5匹作る。」といます。確かにどちらも正解です。

その後、再びよく話し合い、みんなで同じイメージでこいのぼり作りに取り掛かり始めました。日本語っておもしろいですね。おもしろいからこそ、きちんと自分の思いを伝えることが大切だということを体験できたようです。



さて、どのくらいの大きさにしようか。



並べてみようよ。こんな感じかな？



うん、いい感じ!

ここが目かな？





本物と同じようにいろいろな色を使って目を作ります。

さて、体と目ができると…

「鱗をつけたい。」といいます。では「鱗ってなあに？」「どんな風になっているの？」と逆に尋ねてみました。

すると、どの子も???

確かにスーパーで売っている魚は切り身になっていて、きれいに鱗がとられています。近頃では、魚をさばく様子を見ることもなくなってきましたよね。

さて、どうするのかなと思って様子を見てみると…

「幼稚園のこいのぼり、見に行こうか！」と誰からともなく声が上がりました。「いいね」と賛成多数。子どもたちは、すぐに画用紙と鉛筆を手に持って、園庭に飛び出して行きました。なかなか行動的です。





こいのぼりの下で、よく観察しながらデッサンです。



ここ、こうじゃない？



あっ、そうか！

相談しながらだんだん形になってきました。

いよいよ鱗づくりです。

「絵の具を使って作りたいな。」「ビニールだと色がつかないよ。」「大丈夫だよ…。」と意見が分かれ、ビニールに絵の具をつけて試してみることに。

すると、ビニールの上のはじかれた絵の具を見て、

「どうする?」「紙なら大丈夫だよ。」と鱗型に切った紙を貼ることになりました。

5匹分の大きなこいのぼりとなるとたくさんの鱗が必要となり、並べて数えながら作っていましたが、実際に貼ってみると「あれっ、足りなくなっちゃった。」と何度か作り足していました。

また、たくさんの鱗を作るために、障子紙に絵の具で着色しましたが、繰り返し取り組む中で色の組み合わせや絵の具を染める時の折り方にも興味を持ち、試したり工夫したりしながら取り組んでいました。





なかなか、いい感じ！

切れないように
そーっと、そーっと



最初に上がったのは、3匹！



そして…
何日もかけて5匹のこいのぼりを完成させました。

4月の半ばころから、自分たちの大きなこいのぼりを作ろうと、時間をかけ、形や素材、作り方など、たくさんのことを考え、相談しながら、じっくりと取り組んできました。

完成までに、3週間くらいかかったでしょうか。かかった時間の分だけ、完成した時の喜びは大きなものになったことでしょう。

とても立派なこいのぼりの完成に、年少さんも憧れのまなざしで大空を見上げていました。

